

みやぎ震災伝承 コンソーシアム の記録

2023/01/20

東北大学災害科学国際研究所

佐藤 翔輔

今日のねらい(伊藤さん談)

- ① **互い**にどういう取り組みをしているのか・
思いを知る
- ② 困りごと・ワザを共有しつつ、**新たな活動
の可能性**をさぐる
- ③ **みやぎ震災伝承コンソーシアム**の活動
の方向性をさぐる

2. 会員間の連携の可能性 まとめ？

困りごと・ワザを共有しつつ、
新たな活動の可能性をさぐる

こまりごと・なやみ

- お客さんを受け入れる窓口：一元的な窓口がない(ほしい)
- 地元の学校利用が少ない
- 学校教育(小中)のなかに十分に取り込まれていない
- 後継者・担い手を育成できていない(したい)
 - 「食べていくために」
- 震災伝承：地道にひとつずつやっていくしかない
 - 受け手に、どう変わってもらうか？(それが「伝わる」ということ)
- 新しい伝承(発信方法)の工夫(もっと)
 - リニューアル
- 組織のなかでの震災体験の継承ができていない
- 県内での地域差がある(どこかに集中？)
- 伝える内容そのものをかんがえなおす
- どこに何があるか分からない

連携のアイデア

- 直売所で行う語り部(どこでもできる, 新たな案内先), 旅行会社との連携・支援の可能性
- 語り部の育成: 誰でも話せる場の提供, まずは知る場の提供(ツアー)
- 効果的な周遊の仕方の提示
- HPの相互リンク
- 企業からの技術提供(VRなど)による伝承方法のパワーアップ
- パネル(展示内容)の相互共有
 - これのコストバックアップ
- 郵便局(など事業所)との, 伝承・教育実践
- 「意識」「想い」をコンソーシアムメンバーで議論する・統一する
- 担い手の「顔」が見えるように
- おすすめコースをつくる
- お互いの差異・特徴を知る

次テーマ： コンソーシアム活動の アイデア

自グループ

または

他グループ

の内容をふまえて／ふまえなくても

3. 今後の コンソーシアムの活動 の方向性

案

①運営

- **コンソーシアムの目標をつくる(未来像)**
 - そのうえで, 具体的な計画ができる
- **コンソーシアムの仲間を増やす**
 - 民間をたくさん巻き込む
 - 沿岸部だけでなく, 内陸部の担い手も巻き込む
- **ひきつづき, 県が事務局で(持続可能性)**
 - 事業ごとに実行委員会形式で

②情報発信・共有

- 公式のウェブサイト
 - 公式紙媒体
 - 強力な県外発信
- おなやみ相談など気軽にコミュニケーションができるITツールの導入
- 活動の現場をみながら、その上で意見交換
 - 知ることが連携につながる

③活動内容

- 宮城が、コンソーシアムがどうあるべきかを議論しつづける
- 震災伝承の内容整理(体系化)
- “きょうみみたいな”顔合わせ
- 包括的な利用者動向の把握
 - フィジカル
 - サイバー
- 意見交換(そのテーマ)
 - 連携・協力するための仕組み
 - ひらかれた状態で、共催で
 - 課題出し・煮詰め
 - 地元の人が利用するにはどうするか？
 - 伝承者の育成方法
 - 適切な受け入れ価格

- **すべて実現したいアイデア**
- **まず、むこう3年のプランニング**
 - **できると思う**
 - **理由:9月キックオフからのキャッチボール**
 - **宮城県オリジナル**
- **30年, 100年, 1000年つづけるためにも**
- **これからもオール宮城で**

- **意見交換すべきテーマ**
- **研修・会議・シンポジウムの時期・場所・内容**
- **コンソーシアム活動・会員活動の情報発信の方法**
- **会員間の情報共有の方法**
- **コンソーシアムの運営の方法**